

# 行ってきました



みなさん、こんにちは。

先月の25日から今月の2日まで八百津町の海外研修に参加しました。一週間の間にポーランド、リトアニアとドイツを訪問しました。私はこの3ヶ国を初めて訪れるのでとてもドキドキしていました。初めてだから楽しみということよりも、ホロコーストの歴史があって、どんな気持ちになるかが心配でした。

みなさんはホロコーストというとナチスドイツとまず思うと思いますが、実はポーランドとリトアニアの国民も加害者でした。ナチスと手を組んでやった人もいたけれど、自ら進んでユダヤ人を喜んで殺したポーランド人やリトアニア人がたくさんいました。そうではないと殺されたユダヤ人の人数が600万人までのぼらないでしょう。イスラエル人としてこれらの3ヶ国に対しての気持ちが複雑で対面が不安でした。

はじめに行ったのはポーランドです。

ポーランドにはもっとも大きくて恐ろしい収容所「アウシュヴィッツ」があります。アウシュヴィッツではほぼ6年間の間に110万のユダヤ人が殺されて(ほとんどの人はガスで)います。今は世界遺産となって、世界中から訪れる人数は年々増えて、2013年には143万人を記録しました。

この場所が収容所に選ばれた理由の一つは鉄道があったからです。戦争中の厳しい生活から救ってあげるとナチスがユダヤ人に希望を持たせて、引っ越しの準備をさせて、貨物列車に乗せました。アウシュヴィッツに着いたら門の上にドイツ語で「働けば自由になる」と書いてありました。ホームで荷物を預けた後すぐに選別されました。働ける男女の約20%だけ残されて、後のお年寄りや子どもは体をキレイにすると言われ、シャワー室へ入れられました。「脱いだ服の場所を覚えてね。」と言いながら、石鹸とタオ

ルを渡して…。蛇口から出たのはお湯ではなく、毒ガスでした。20分以内に何百人かが一度に殺されました。こうしてナチスがユダヤ人を反発させずに最後の最後まで騙しました。

私はこの事実をもちろん知っていましたが、殺された人のメガネ、靴、鞆や髪の毛の山を目の当たりにした時にやっぱりショックでした。幼い子どもの写真を見た時も涙が出て止まらなかったです。何の罪のない人たちがどんなにひどいことをされたか。もし今もホロコーストの時代だったら、私の最愛の5人の子どもと主人、そして私も、同じように理由にならない理由で殺されると思うだけでその恐怖を感じます。

心が重いですが、アウシュヴィッツへ行って良かったです。人種に関係なく人間であれば行くべき所です。私がそこにいた時にいろんな言語が私の耳に入ってきたことが唯一嬉しかったことです。

来月、続きのリトアニア訪問について書きますので、待っていてくださいね。



アウシュヴィッツで撮った写真。

右手のホームで選別された後、ガス室へ(今木が立っているところ)

ハニトさんへの質問は  
hanito@town.yaotsu.lg.jp までどうぞ!